

おおま 議会だより

第70号

発行 青森県下北郡
大間町議会
編集 大間町議会
広報編集委員会
〒039-4601 青森県下北郡大間町
大字大間字大間104番地
☎ 0175-37-2111

平成23年 7月

岬の光

原子炉压力容器製造工程視察

**7月定例議会
主な内容**

○大間町議会議長挨拶・議会組織

P2

○平成23年度補正予算

P3

○一般質問

P4・5

○バブコック(株)呉事業所視察 外

P6

新議長 あいさつ



石戸秀雄 議長

町民の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より町議会に対し多大なご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

このたび不肖私、五月に開催されました大間町議会臨時会におきまして、議員諸氏のご推挙により、第二十三代の議長の要職に就任することとなりました。もとより浅学非才であります。

長きに亘る議員生活、そして議長経験を生かし、議員各位を始め町民皆様方の温かいご支援とご協力をいただきながら町政の発展と円滑な議会運営のため粉骨砕身努力致しますので

よろしくお願い致します。

さて、東日本を襲った大震災は未曾有の被害をもたらし、さらに原子力発電所の事故の影響等、国においても厳しい状況にあります。町におきましても大間原発の工事の中断や大間・函館フェリ

ー航路存続の問題等、諸課題が山積みしており、各議員の方々が積極的に取り組み町民の負託に応え、皆様が安心安全な生活を営む環境づくりに努めて参りますので、皆様方のご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。

議長就任のご挨拶と致します。

議会組織

議会機構

- 議長 石戸秀雄
- 副議長 岩泉盛利
- 事務局 山本隆
- 議事係長 笹谷妙子

議会議員

- 千代谷 誠
- 竹内 弘
- 野崎 信行
- 小林 和美
- 石戸 秀雄

産業民生常任委員会

- 傅法清孝
- 正根秋雄
- 加藤正喜
- 宮野昭一
- 岩泉盛利

議会運営委員会

- 宮野昭一
- 加藤正喜
- 小林和美
- 千代谷誠
- 傅法清孝
- 正根秋雄

議会選出各議員

監査委員

- 竹内 弘

大間原子力発電所

対策特別委員会

- 正根秋雄
- 傅法清孝
- 岩泉盛利
- 竹内 弘
- 加藤正喜
- 野崎 信行
- 小林 和美
- 千代谷 誠
- 宮野昭一
- 石戸 秀雄

大間町公共施設配置計画

策定・建設特別委員会

- 加藤正喜
- 小林 和美
- 竹内 弘
- 野崎 信行
- 千代谷 誠
- 傅法清孝
- 正根秋雄
- 宮野昭一
- 岩泉盛利
- 石戸 秀雄

大間・函館フェリー航路

対策特別委員会

- 宮野昭一
- 野崎 信行
- 竹内 弘
- 加藤正喜
- 小林 和美
- 千代谷 誠
- 傅法清孝
- 正根秋雄
- 岩泉盛利
- 石戸 秀雄

一部事務組合下北医療

センター議会議員

- 宮野昭一
- 岩泉盛利

下北地域広域行政

事務組合議会議員

- 千代谷 誠
- 傅法清孝

国保運営協議会

- 加藤正喜
- 宮野昭一

大間町議会広報編集委員会

- 加藤正喜
- 千代谷 誠
- 竹内 弘
- 野崎 信行
- 小林 和美
- 宮野昭一

◎委員長 ○副委員長

- ◎委員長 石戸 秀雄
- 副委員長 岩泉 盛利

平成二十三年度補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ二、一
二七万二千円を追加し、予
算の総額を六〇億五、〇二
七万五千円とした。

企画費

電波調査委託料六〇万円
を計上

土木費

大間奥戸線道路改良用地
測量調査委託料一九八万九
千円を追加計上

商工費

海峽保養センター事業特
別会計繰出金三〇万円を計
上

港湾費

割石地区動力電源工事費
一六七万六千円を減額計上

財産管理費

中型バス修繕費五七万一
千円を計上

第2回大間町議会定例会

議事日程

1. 議事録署名議員の指名について
2. 会期の決定について
3. 諸般の報告について
(議員派遣の件について)
4. 一般質問
5. 専決処分した事件の承認について
(平成23年度大間町老人保健特別会計補正
予算(専決第8号))
6. 平成23年度大間町一般会計補正予算
(第1号)
7. 平成23年度大間町海峽保養センター事業等
特別会計補正予算(第1号)
8. 平成23年度大間町下水道事業特別会計補正
予算(第1号)
9. 平成23年度大間町水道事業会計補正予算
(第1号)
10. 大間町農業委員会委員の推薦について
11. 陳情について
12. 閉会中の委員会の審査又は調査について

下水道費

下水道事業特別会計繰出
金三百万七千円を追加計上

消防費

災害用備蓄品購入費四七
九万五千円、防災計画策定
業務委託料五六万八千円
を計上

教育費

臨時講師賃金一五七万円、
奥戸中学校校舎外壁改良工
事費一、〇七八万四千円を
追加計上

予備費

財源調整し二三万三千円
を減額計上

海峽保養センター 事業等特別会計

歳入歳出それぞれ三〇万
円を減額し、予算総額二億
八四九万二千円とした

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ三〇〇
万七千円を追加し、予算総
額二億三、四四七万六千円
とした

水道事業会計

支出の営業費用で五六三
万六千円を減額し、収益的
支出の総額を一億二、七〇
七万七千円とした

農業委員会委員

野崎 信行

第4回臨時会

工事請負契約締結

(仮称)奥戸コミュニティ
センター建設工事
熊谷・野崎・高松特定建
設工事共同企業体
二億四、五百七〇万円で落札

防災全般を問う



宮野昭一
議員

一般質問

質問

災害時、町が指定している避難場所が、津波等の避難場所として、適当かどうか再検証が必要だと思いが、

町長答弁

屋内避難所が公共施設14ヶ所、屋外避難所が18ヶ所指定しておりますが、東日本大震災の津波を想定した

場合、大間、奥戸両公民館を含め、適さない場所が数ヶ所ございます。又、地震等の災害も、施設の耐震強度等も考慮しなければならぬので、耐震診断の実施など、適切な対応を進めたい。

質問

津波に対応するため、要所に海拔

標識を設置し、津波を意識させることが必要なのと、避難場所への自家発電の設置（常設）、避難物資（救援物資）の確保（常設）の検討をお願いしたい。

町長答弁

海拔標識の設置ですが、避難場所及び、町内の要所に設置してハザードマップを作成、町民に周知していきたい。

自家発電の設置については、これから建設する奥戸コミュニティセンターに自家発電回路を設置いたしました。学校、公共施設、避難場所については、リースを含め、今後検討していきたい。

質問

津波による避難指示等で、海上に避難した漁船と、陸

上との情報交換が出来ないことが今回問題になりました。問題解決のため国、県を含めた対策をお願いしたいのと、町では定期的に避難訓練の実施をしておりますが、防災体制の充実と、町民への啓蒙活動の実施をお願いしたい。

町長答弁

聞き取りでは、大間漁協は対応が出来ているとの返事でしたが、奥戸漁協は、陸からの交信手段がないとの事ですので、今後、両漁協と協議しながら対策を考えたい。

今年度から毎年10月の第一日曜日を大間町防災の日と定め、毎年地区を変え、地震、津波の避難訓練を実施いたします。町内会単位での防災講演会、講習会等を計画しておりますし、町の広報紙を利用して啓蒙に努めたい。

質問

原子力発電所の安全神話

が崩れた。原発立地町として、町民の安心、安全を守るため、原発事故対応のマニュアルの作成。避難具の早急な確保。20キロ、30キロ圏外避難のマップの作成を希望したい。

町長答弁

防災マニュアルは、現時点では未完了です。地域防災計画原子力編の作成後、自治体が自主的に定めるもので、全国の原発立地自治体より情報を収集し、実効的なマニュアルを作成したい。国道279号線が、津波対策で、一時通行止めの間が発生した。対策として津波の影響を受けない山岳地帯に整備をするよう、国、県、関係機関に要望したい。今回の原発事故の影響から原子力安全委員会の災害指針、及び、避難計画の見直し等が考えられます。町として7市町村連絡会議を活用し、国、県の動向を注視しながら、積極的に協議を重ねていきたい。

一般質問



野崎 信行
議員

質問

大間病院に小児科を

小児科がなく、たらい回しになるケースが多い為、小児科の新設を希望する。

町長答弁

大間病院には、現在でも診療科として、小児科は設置されており、

ただ、医師の配置がないため診療科としてあります。二月九日に乳幼児をかかえる母親グループから、小児科医の招致などの嘆願書が提出されました。

今、全国的に小児科の医師が不足しているため、早急に医師を配置するのは、非

常に難しい問題であると話をしております。

まず、大間病院を受診した際に、先生方がきちっとした対応、要するに専門医等、むつ病院、総合病院等との連携を密にしながら、措置を講じていくことを進めていくよう大間病院とも確認している。

質問

風力発電の必要性

原発立地の大間町ではあるが、自然エネルギーである風力発電に力を入れるべきである。風力発電10基設置し、余りを売電したらどうか。

町長答弁

町が風力発電を10基設置してはということですが、現時点では、考えておりません。

質問

原子力発電所工事再開

工事がストップしているためホテル、民宿、旅館等は収入がなく死活問題となっている。対応を講じていただきたい。

町長答弁

今、国、県、町は独自の検証委員会を立ち上げてその検証をしている。

町として、また議会としても安全第一として、工事の再開を願う要望もしている。このことは国、県の動向を見ながら判断せざるを得ない状況である。

質問

下北縦貫道路

現在、下北縦貫道路は、野辺地町から基点とし着工が行われているが、大間町側からも着工し、完成早期実現を目指していただきたい。

町長答弁

今でも縦貫道路を大間ま

で延伸し、大間からも工事を進めてほしいことについては、ずっと要望してきた。県の回答では、まずはむつ市までを完成させた後に、考えるというのが県の回答であります。

避難道という位置付けから、県もその重要性を認識しているとのことであり、

先般、岡田幹事長が来町の際にも避難道の必要性を訴えております。

今後とも、町、議会共ども地震や津波に耐えられる道路の整備を、強力に求めてまいりたいと思っております。

質問

奥戸向町に集会所設置

災害時に館ノ上まで避難するには時間がかかるため、向町地区に避難場所になり得る集会所を設置してもらいたい。

町長答弁

災害時等も含めた避難場所を兼ねた集会所の設置ということではありますが、向

町の地形的なものを考えますと、すぐ山が急に立ち上がっていることでもあり、

通常、例えばお年寄りの方たちが歩いていけるような状況で集会所をつくるのであれば、避難場所としての用途というのは非常に難しいことになるのかなというふうな思いをしております。

まずは、集会所、今までのつたものが無くなったわけですので、集会所については、今後、財政等との協議をしながら設置に向けて考えていきたいと思っております。

また、避難所というふうな位置付けでは、今後の防災計画等も含めた中で検討してまいりたいと思っております。

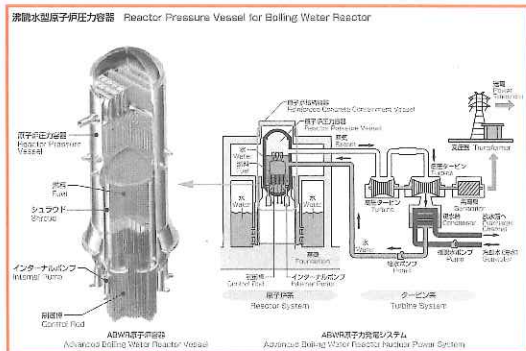


一般質問中

バブコック日立(株)呉事業所を視察

三月十一日発生の東日本大震災による福島原子力発電所の事故は世界中を震撼させ今後の原子力政策に大きなかげを落とした。

わが大間町に建設中の工事も一旦停止の状況が続く中、原発の中心部である圧力容器の製造工程を視察し、大きさ、構造、安全性等様々な心配に対しての質問に答えてもらった。



広島県呉市にある、バブコック日立(株)は、日立電カグループの中核企業として「ボイラとA Q C S」を中心にグロウバルな事業を展開する会社で、ここで電源開発(株)が建設中の大間原発の心臓部となる原子炉圧力容器をまさに製造中で、厚さが17センチメートル以上の鉄板を加工し製造する過程と、超音波による溶接部分の検査の状況などを目の当たりに視察した。

福島第一原子力発電所での、メルトダウン、メルトスルーといった問題について熱心な質問におよび、職員も回答に戸惑うというひと場面もあった。

想像を絶する原発事故を未然に防ぐ対策は今後日本のエネルギー政策を大きく左右することになる。と一同深く認識した。

県下町村議会議員 研修会

田舎館村視察報告

(議員10人全員参加)

平成二十三年七月十五日(金)青森市民ホールに於いて、東京大学名誉教授大森わたる氏を講師に迎えて「二元代表制と議会の価値」の演題で県下町村議会議員研修会が行われました。

翌十六日(土)は田舎館村役場を表敬訪問。田舎館道の駅「弥生の里」地場産品販売所を見学しました。

編集後記

平素は、大間町議会広報を、ご愛読いただきありがとうございますことに、感謝申し上げます。

今般、四月の選挙で議員の顔ぶれも変わり、広報編集委員の組織も一新いたしました。

委員一同ますます町民のみなさまに愛され、解りやすく、読みやすい公報の作成に取り組み、町政に関心を持っていただけるよう努力してまいりますので、倍旧のご支持ご声援をお願い致します。(宮野)

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

千代谷 誠

委員

竹内 弘

野崎 信行

小林 和美

宮野 昭一